

□議員名：吉永美子

1 地域包括ケアシステム構築の推進について

論点	高齢者が安心して住みなれた地域で暮らしていけるよう取組を行っているが、まだまだ進む高齢化の中にあって主たる課題を聞く。
回答	まずは自分のことは自分でする自助、そして身近な人と支え合い、互助を大切にしつつ、効果的に共助、公助を活用することが大切であると考えている。高齢化が進む今、共助である保険制度などのサービスや制度だけで、地域包括ケアシステムを充実・推進していくことは難しいと思う。いかに自助と互助の取組を進めていくかが大きな課題であると思っている。

論点	「いきいき百歳体操、住民運営通いの場」は歩いて通える場所にあるべきことから、空家の活用はできないか。
回答	空家等対策計画では、空き家対策について老朽危険空家の対策とあわせて利活用を促進する2本立てで進めていくということを明記しているので、空き家の利活用につながるようなことであれば、議員提案の利用についても大いに検討する価値があると考えている。

論点	地域包括支援センターの機能強化を図っていくことはとても重要であるが、人員体制を含め、機能強化について考えを聞く。
回答	一番大切なのは一人一人のさらなるスキルアップを図っていくことが必要であると考えている。地域包括支援センターには、基準に応じた人員を適正に配置している。また、主に認知症の初期集中支援の観点から、作業療法士を配置し、人員体制の強化も行っている。

2 読書活動を更に前進させるために

論点	本年の3月議会でセカンドブック事業を提案したが、その際の答弁を踏まえ、検討状況を聞く。
回答	セカンドブックは子どもの読書推進という観点から、教育委員会と切り離して行うべきではないと、スマイルキッズの担当部署としても考えている。教育委員会のセカンドブックの考え方を聞く中で、スマイルキッズで協力できること、連携できることがあれば行っていきたい。

論点	子どもの読書を推進する観点から、全国で導入が進んでいる読書通帳について、作成の考えを聞く。
回答	通帳ではないが、2年半前の平成28年7月に厚狭図書館で読書手帳を導入している。中央図書館では導入していないが、今後、こういったものを配付できるように準備を進めていきたい。

論点	他市に聞くと、小学校1年生のときに読書通帳をプレゼントしているという話があった。読書をするきっかけになると思うが、配布について考えを聞く。
回答	どこまでするかは、これから進めていくので、その中でいろいろと協議して決めていきたいと思う。どのようにするかという具体的な回答については堪忍願いたい。

論点	本年6月、読書バリアフリー法が施行された。同法の5条には、地方公共団体の責務が明記されているが、本市の取り組み予定を聞く。
回答	読書バリアフリー法が文部科学大臣等に対して基本計画の策定を、また政府に対して施策の実施に必要な財政上の措置等を義務づけているので、これらがどのようなものになるか注視していくとともに、点字図書館を設置している県の施策も勘案して、視覚障害者等の読書環境の整備を推進していきたいと考えている。

3 ガラス文化の振興について

論点	新斎場建設にあたり、本市在住のガラス造形作家を活用すべく提案した。その後設置されたガラスアートについて、内外の評価を聞く。
回答	他市の自治体関係者の方や葬祭業者、建設業者、市民内覧会の来場者、そのほか見学に来られた一般団体の皆様からは、作品のコンセプトも含め、高い評価をいただいている。新しい斎場という施設に柔和に溶け込んでいるすばらしい作品であると評価している。

論点	平成29年3月議会での答弁を踏まえ、公共施設の新設や改修の際に、芸術としてのガラスを取り入れることについて方針を聞く。
----	---

回答	公共施設の性格等もあるので、今後、整備が計画されている全ての公共施設とはいかないかもしれないが、ガラスに関するものを取り入れたり、本庁所有のガラス作品展示を行ったり、市民や民間の皆さんとの協創によるガラス作品を展示するなど、さまざまな手法を活用しながら、積極的に本市のガラス文化を推進していきたい。
----	---

論点	来年には第8回現代ガラス展が開催されるが、どのような検討を行っているのか、状況を聞く。
回答	現代ガラス展の開催は、身近で、質の高い芸術文化を鑑賞する絶好の機会であることから、本市のより多くの子どもたちが現代ガラス展を鑑賞できるよう、子ども文化ふれあい事業とのタイアップを視野に入れながら行っていきたい。

論点	以前の答弁と違って、県外での開催が無理ならば、第9回現代ガラス展は東京で開催できるように今から動くべきではないか。
回答	東京進出については、第8回現代ガラス展での情報発信はちょっと難しいと思うが、それ以外の件で、いろいろと検討している。今後、なるべく早い時点で東京進出も実現を図りたいと思っている。

論点	山陽オート場は、優勝トロフィーがガラスで作成されている。オートをPRするため、現代ガラス展でオート関係の展示をできないか。
回答	公営競技事務所といろいろ協議しながら、なるべく展示できるようにしていきたい。